



日本生態学会における男女共同参画および若手支援の取組

日本生態学会 キャリア支援専門委員会

日本生態学会は、生態学の進歩と普及をはかることを目的とし、学術雑誌の発行や年次大会の開催のほか、自然保護に関する内閣への要望書の提出など、さまざまな活動を展開しています。将来計画専門委員会から独立する形で発足した本委員会では、「生態学若手の会」とも連携し、男女共同参画および若手研究者のキャリア支援に関する活動を一体的におこなっています。以下に日本生態学会による取組みの一部を紹介します！

男女共同参画

◆託児室

第46回大会(1999年)では有志による託児室の設置、続く第47回大会(2000年)では大会本部により託児室が設置された。第48回大会(2001年)では学会として継続して託児室を設置するという方針が全国委員会と総会で確認され、以後、毎年開設している(これまでの利用者数は下図の通り)。



▲託児の様子(2014年広島大会)



◆ファミリー休憩室

2013年より全国大会時に子連れの大会参加者が**予約なし・無料**で利用できる「ファミリー休憩室」を設置している。利用者には大変好評で今後も継続する予定となっている。



▲ファミリー休憩室の様子(2014年広島大会)

利用者の声

- ▶とても使いやすくて良かったです。ぜひ今後の学会でも作ってほしいです。
- ▶子供がのびのびと遊べるスペースがあって大変ありがたかったです。

◆女子中高生夏の学校

河辺や雑木林といった身近な自然には、植物や動物など、どのような生物がいてどのような生活をおくっているのか、また生物同士の間にはどのような関係が成り立っているのか、参加者と共に観察し、考えるプログラムを提供している。

年	実験題目	参加者
2008年	野鳥の森の自然観察	16名
2009年	河辺の生態系を観察しよう	9名
2010年	水辺の生態系を観察しよう	17名 (中学生4名、高校生13名)
2012年	水辺の生態系を観察しよう	Data not available
2013年	水辺の生態系を観察しよう	Data not available
2014年	身近に生きる生物たちの生態	5名



▲シロダモの年輪を計測。スギより若いことがわかる。



▲ツルグレン装置(手前)と実体顕微鏡を使って土の中の微小な動物を採取、観察。

若手支援

◆フォーラムの開催

2008年より全国大会時に男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを開催している。さまざまな立場にある会員による話題提供をとおして、会員の男女共同参画に関する意識を高めるとともに若手支援のための課題と方策について考える機会を提供している(過去5年のフォーラムのテーマは以下の通り)。

2014年	「若手(男女)研究者の雇用の問題とキャリア形成支援」 若手研究者を取り巻く雇用環境や意識の変化、就職状況の傾向について3名の方から講演を頂き、労働契約法が改正されるなど雇用環境が変化中でのキャリア形成について議論した。
2013年	「若手研究者のキャリアパス支援－生態学で学んだキャリアを活かす－」 博物館、高等学校、環境省で活躍されている3名の方を招き、生態学を学んだキャリアをどのように活かすことができるのかを紹介していただいた。
2012年	「若手研究者のキャリアパス支援－民間企業・自治体でキャリアを活かす－」 生物多様性や環境保全を視野に入れた活動を展開している企業や自治体の担当者に話題提供してもらい、「生態学を学んだキャリアパスをどのように活かすか」をテーマに活発な議論がおこなわれた。
2011年	「若手研究者のキャリアパス－就職先の多様化と将来性」 民間企業に就職した博士と、博士を採用している企業の双方に話題提供をしてもらい、民間企業への就職の可能性と将来性について議論した。
2010年	「若手のための学位取得後のキャリア支援」 大学の助教や国立研究所のポスドクなどの採用の際の審査・評価のポイントなどについて情報を提供した。

◆企業説明会の開催

2012年より、全国大会において企業ブースを設置し、企業説明会を開催している。これまで、ポスドク・大学院生の採用に興味を持つ企業・官公庁の19のブースが設置された(3年のべ数)。うち10社では人事担当者が来場し参加者と面談をおこなった。会期中は、多くの若手会員の来場者を得て盛況に終わった。今後も参加企業数を増やすことを目標とし、継続して実施する予定である。



▲企業説明会の様子

◆就職状況アンケート調査

2013年度末に、全国の大学・大学院における研究室主宰者を対象に、卒業生の就職状況についてのアンケート調査を実施した。学士・修士では、専門職・研究職以外への就職者が5割を上回る一方で、博士では専門職・研究職への就職者が極めて高かった。また、専門職に就職した学生の割合には、男女間で有意な差が認められなかった(Fisher's exact test: $p = 0.08$)。

